福島民報
かむろば版

お金怖い…村へ

「一円も使わず」宣言
元銀行員、願いかなうか

「なにも買わない、なにも売らない」の決意を固めるタケ。奥は青葉

タケ（左）の生活を物心両面で支える村長夫婦©2015　いがらしみきお・小学館／「ジヌよさらば～かむろば村へ～」製作委員会

高齢化率40％、過疎化の進む寒村「かむろば村」に若い男性がやって来た。元銀行員「タケ」だ。お金（銭＝ジヌ）に触るだけで失神してしまうアレルギーを持つ。一円も使わずに暮らしたいと望む。「なにも買わない　なにも売らない　ただ生きていく」―。現代の日本で、そんなことができるのか？　世話好きの村長、村の「神様」、美女たちに助けられ何とか生活が軌道に乗り始めるが、不穏な事件の臭いが漂い政治の思惑が渦巻く。タケの願いはかなうのか。

かむろば村に引っ越してきたのは高見武晴さん（三七）＝通称「タケ」＝。携帯電話は捨て、電気、水道、ガスも使わない。稲の苗は手で植えるという。

「おめ、死ぬぞ！」「なめでんの？」

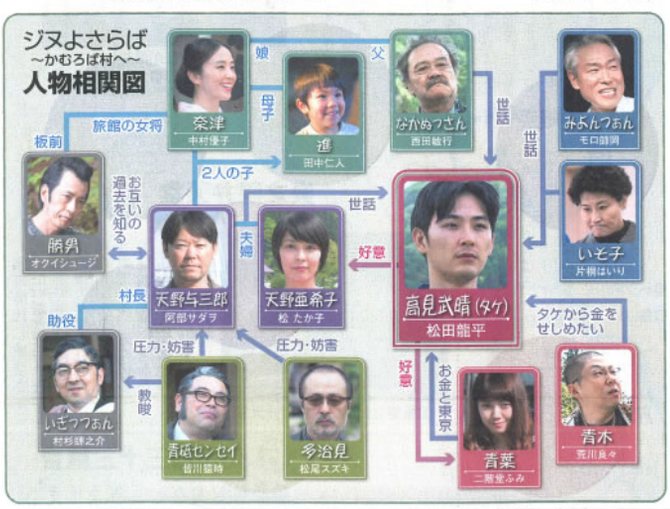
村長の天野与三郎さんはじめ村民からは、無謀な挑戦と心配する声が上がっている。

高見さんは以前、東京で小さな銀行に勤めていた時に人生を左右するお金の力を目の当たりにして、「お金恐怖症」になった。見るのも触るのも怖い。絶対にお金を使わない生活をする決意で、くたびれた中古の一軒家を買った。

古い小が風情のある農家の雰囲気や、緑の苗が揺れる田んぼの風景が気に入っている。地元の言葉にも少しずつ慣れてきた。村ではスーパーのアルバイト代として食料の現物支給を受け、よろず仕事の代わりに村民から野菜をもらって暮らしている。

乱暴だが何かと世話を焼いてくれる村長、村長の妻のやさしい亜希子さん、伊佐旅館の奈津さんらに助けられ、高校生の青葉さんにほんろうされながらも懸命に生きている。どんなことでもお見通しの村の「神様」なかぬっさんの言葉に、いろいろ思いを巡らせているようだ。

ある日、村に怪しい男がやって来た。村長には何か秘密があるらしい。不穏な空気が漂う。村の将来はどうなる。高見さんにできることは何か。一緒に考えてほしい。



村の「神様」とあがめられる、なかぬっさん（右）。左は板前の勝男

タケが購入したかむろば村の一軒家

4月4日 全国公開

「ジヌよさらば～かむろば村へ～」は四月四日、全国の劇場で公開される。

会津各地でロケ
風景や人間模様見どころ

地元のお年寄りたちも味わい深い演技で作品を盛り上げる

映画「ジヌよさらば～かむろば村へ～」は山村風景や生活感あふれる商店街なども見どころだ。福島県柳津町を中心に会津坂下町、三島町、金山町で撮影された。物語を彩る美しい架空の村を舞台とするヒューマンコメディー。

監督で自らも出演した松尾スズキさん、主役の松田龍平さん、阿部サダヲさん、松たか子さん、二階堂ふみさん、西田敏行さん（郡山市出身）、片桐はいりさん、皆川猿時さん（いわき市出身）、荒川良々さんら人気俳優が昨年五月、一カ月にわたりロケを繰り広げた。

地元のエキストラとの呼吸もぴったり。全編に「松尾ワールド」独特のユーモアがちりばめられ、山村生活の現実と面白さ、したたかに生きる人間の姿が描かれている。

映画は柳津町の特別協力、福島民報社の特別協賛。原作は、いがらしみきおさん（宮城県出身）の漫画「かむろば村へ」。配給はキノフィルムズ。

柳津町の魅力　次ページで紹介

発行所
福島民報社
福島市太田町13～17
（郵便番号960-8677）
電話代表（024）531-4111